

ほとんど知られていませんが、中学と高校の保健体育の学習指導要領に「がん教育」が入り、まず全国の中学校でがんの授業が始まっています。

私は2008年11月8日、東京都国立市の中学校で、初めてがんの授業を行いました。2009年2月に行われた国の「がん対策推進協議会」でも、「子どもの頃からの教育が大事。私も国立で実際に授業を行った」とがん教育の重要性を訴えました。これが議論のきっかけとなり、「がん対策推進基本計画」にがん教育が盛り込まれました。

今年度から中学校の教科書が改訂され、保健体育ではがんのページが本格的に登場しています。保健体育の教科書

は1年から3年までで1冊で、がんについては2年で学ぶようになっていきます。高校でのがん教育は来年度から本格的に実施される予定です。これまで生活習慣病と関連

づけられる形や巻末資料などで取り上げられることはあっても、がんをきちんと学ぶ機会とはほとんどありませんでした。新しい教科書では、目次に「がんの予防」といった項

写真、がんのステージ1〜4の5年生存率（ステージ1では91・8%など）、受けるべきがん検診の種類と対象年齢（子宮頸がんは20歳から）といった踏み込んだ内容も見ら

## 保健体育でがんを学ぶ時代

「身近な大人に向けて、がんに対してどのように行動すればよいかアドバイスを考えてみましょう」には驚きました。がんを学んだ子供が、習っていない大人にアドバイスする時代になったわけです。

大腸がんと肝臓がんで3回の手術を受けた人の体験談は私にとっても参考になりました。「がんの種類と復職率」のグラフからは、仕事とがん治療の両立は可能だと理解できます。

### がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

目が立てられ、2頁から4頁にわたってポイントがまとめられています。

多少のちがいはありますが、「がんができる仕組み」、「生活習慣と発がんのリスク」、「がんの予防法」、「早期発見の重要性」といった基本的な知識は、どの教科書でもきちんとおさえています。

さらに、大腸がんの内視鏡

(東京大学特任教授)